
中学生活

弥生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

中学生活

【Nコード】

N0899B

【作者名】

弥生

【あらすじ】

転入生の隆幸と睦月と仲間たちの『中学生活』！

No. 1 転入生

あたし宮本睦月^{みやもとむつき}！12歳で今、中1！！歳見たらわかるよね。

あたしは頭使うより体力派。成績は半分くらい（あはは・・・）
あたしの住んでるところって都会じゃないから転入生少ないんだ。
だからみんな顔見知りばかり・・・

けど、今回転入生がきたんだ！

名前は、中谷隆幸^{なかつたかゆき}。東京から引っ越してきたんだ。

家はあたしの家の隣で、母親同士が中学・高校時代の親友らしい。

「隆幸いっく早く行こう！」

「睦月待ってくれ！」

隆幸が転入してきて1ヶ月。

隆幸の性格で、もう友達はいっぱいいるようだ。

ついでに頭もいいし、あたしはあたしの学校の男子よりはルックス
はまあいいと思う。

「ねえ、睦月。中谷君のファン倶楽部できたらしいよ。」

「はああ？ゆう、それほんと？あたしらの学校そんなことってあんの？」

ゆうっていうのはあたしの親友。香田優紀^{かうだゆうき}。

情報が速いんだ。『将来、報道関係の仕事に就くの？』っていうくらい。

「本当だって、今人数約10人だって。先輩もはいつてるらしいし。」

「うわっすごい・・・まあ珍しい転入生で、しかもこのまえの試験
全部90点以上だったし、
ルックスがあたしらの学校の男子よりかはいいってなるとそうなる
か・・・」

「ねえ、隆幸ってさカッコいいのかどうか分かんないんだけど。」

「うそっカッコいいに決まってるじゃん、東京の方でもファン倶楽部あったらしいよ。」

「えっほんと？」

東京でもファン倶楽部があったなんてすごい！けどなんでゆうが知ってんだろう？

あたしはふと、隆幸を見てみた。シヨウと話してる。

シヨウっていうのはももうちしゅう桃内翔。

クラスで1番大きい、170cmあるってうわさだ。

『キンコンカンコン』

あっチャイムだ。

「じゃあね、ゆう」

「うん。」

N o. 1 転人生（後書き）

＋＊☆あとがき☆＊＋

弥生です

自分が中1だから中1のはなしを書いちゃいました。

初めての小説だから下手なんだけど、よろしくお願いします。

No. 2 睦月のファン登場

―放課後―

「あんた。なんで中谷君の近くにいろの!」
「なんでって家近いし、親が仲いいからでしょ。」

「あんたのこと1ヶ月ずっと見てきたのよ。」
「ストーリーって言うんじゃないかな?」

ただいまあたしは放課後3年教室に呼ばれ、ファンの方々に囲まれています。

「みんな、そのくらいに。」

「ありゃ?3年の吉野先輩。」

「やった、たすけ」

「宮本さん、実は君も結構人気があってね、君のファン結構いるんだよ。」

「はいいい?」

「ファン???」

「性格よし、見た目よし、スポーツ万能、成績よし。」

「成績は違うと思うんですが」

「成績は違うと言っているらしいけど」

「かつてに思考を読まないでくれますか?」

「君は今回総合2位だよ。」

「やったじゃん、あたし。けどなんでこの人があたしの点数知ってるんだろう?」

「実はおれ達、君と中谷君を切り離そうと手を結んだんだよ。」

「じゃあ、そう言うことだから。お願いね。宮本さん」

「この方は3年の高見先輩。この人も敵?」

「なんだか男子も増えてきたような、」

「すいませんが、隆幸とは仲がいいだけなんです。」

「あっ『隆幸』って言った！」

「ズルイ！」

勝手に呼べばいいでしょ、あんたらが。

「これから中谷君に近づかないなら無事にかえしてあげる。」

あつもう5時、部活出れない。どうしよう。

「聞き入れなかったら、どうしますか？」

「ちよつと痛い目にあつてあつてもらうわ。」

ズッコン

あたしの顔の隣にこぶしが・・・

「なにすんだ！！宮本さんに！！！」

「そーだそーだ。」

「なによ！！」

「あたしたちは悪くないわ！！」

いや、悪いのはあなたたち全員だから・・・

ああ、あたしのファンvs隆幸ファンの戦いが始まってしまった。

そんな中1人外れている人がいて、手招きしてるー

隆幸だ！！

「隆幸なんているの？」

「そんなことより、逃げるぞ！先生もあと5分で来る！」

隆幸はあたしの手を取って教室から出た。

＋＊☆あとがき☆＊＋

弥生です！！久しぶりの投稿です。

よし、次は最終回だ！

駄文でもよろしく願います！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0899b/>

中学生活

2010年10月29日16時15分発行